

発生予察情報	
特殊報第1号	平成25年10月31日 秋田県病虫害防除所

プラタナスグンバイの発生を確認

1. 病虫害名：プラタナスグンバイ *Corythucha ciliata* (Say)

2. 発生作物：プラタナス

3. 発生の経過

本年8月に秋田市内の街路樹のプラタナスで、葉の白化症状及び葉裏へのグンバイムシ類の寄生を確認した。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、寄生していたグンバイムシは海外からの侵入種であるプラタナスグンバイであることが確認された。

本種は北米原産で、近年、ヨーロッパ、アジア等に分布を拡大している。我が国では平成13年に愛知県名古屋市中で初めて確認され、以降現在までに1都2府14県で発生が確認されている。

4. 形態・生態と被害の特徴

- (1) 成虫は体長が3.5～3.7mmで、軍配に似た形をしている。体色は半透明で乳白色の網目状斑があり、前翅の前方中央部に一對の明瞭な黒褐色紋がある（図－1）。
- (2) 本種は国内では年3世代を繰り返し、成虫がプラタナスの樹皮下で越冬するとされている。
- (3) 成虫、幼虫とも葉裏に寄生し、吸汁により葉表に白いかすり状の脱色斑点が生じる。寄生が多い場合には葉の基部の葉脈に沿った部分から白化する（図－2）。また、葉裏には黒色粘液状の排泄物による汚れが見られる（図－3）。被害が激しいと樹全体の葉が白化するので、街路樹などでは景観が著しく損なわれる（図－4）。

5. 防除対策

- (1) 本種の発生が認められた被害葉は直ちに除去し、処分する。
- (2) 薬剤による防除を行う場合は、登録のある農薬を使用する（表－1参照）。なお、市街地、住宅地で薬剤散布を行う場合は、周辺へ薬剤が飛散しないよう十分に注意する。

【 問合せ先 】

秋田県病虫害防除所 TEL 018-860-3421
掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>

6. 資料



図－１ プラタナスグンバイの成幼虫



図－２ 葉の白化症状



図－３ 葉裏への寄生と汚れ



図－４ 寄生された街路樹

表－１ プラタナスグンバイの防除薬剤

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	使用回数	散布液量
アトラック液剤	－	樹幹注入	新葉展開後	3回以内	胸高直径（樹幹部）6～10cm:30ml、11～15cm:60ml、16～20cm:90ml、21～25cm:120ml、26～30cm:180ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30～60mlを増量する
オルトランカプセル	幹周囲10cmごとに1個	樹幹打ち込み	発生期直前	2回以内	－
スミチオン*乳剤	1,000倍	散布	－	6回以内	200～700L/10a
マツグリーン液剤2	250倍	散布	発生初期	5回以内	200～700L/10a
	50倍	樹幹注入	春期～秋期	1回	胸高直径20cm未満は800ml、20～30cm未満は1,000～1,200ml、30～40cm未満は1,400～1,600ml、40～50cm未満は2,200～3,400ml、50～60cm未満は3,400～5,200ml、60cm以上は直径4cm増すごとに200mlを順次増量する

*「樹木類、グンバイムシ類」での登録